

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和3年度 第5回理事会（緊急）別添資料
2021.9.28（火）21:00～22:55

会長挨拶：遅い時間にもかかわらず集まっただきありがとうございます。
最後までよろしく願いいたします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

- ・全日本社会人ならびに全日本女子ジュニアの代替大会の可能性に関して

仲間専務理事：総務委員会の原先生にオブザーバーとして、発言者として参加してもらっている。栃木県のプレ大会が中止になったことにより代替大会について調整をしてもらっているのをお願いします。

原総務委員：関東、東海、九州ブロックの高校3年生の女子選手は入学後、一度も全国大会を経験せずに卒業となる。そこで全国の高体連の専門委員長に大会参加が可能な時期と出場予定階級について調査を依頼した。また開催可能な都道府県を当たってみるところ国体が中止になった三重県での開催の可能性が浮上した。開催に関する諸条件から全日本女子ジュニアの大会だけに絞って話を進めている。

場所と時期とお金の問題に関しては、三重県は国体中止による補助が出ること、四日市総合体育館が1月4日から8日までに空きがあること、高体連の大会ではないので補助員の問題があり、選手が補助員を兼ねながら試合をすることができないかということを考えている。

理事会で審議していただきたいことは、A級審判員を全国から集めると200万円程度の予算が必要となるため、できれば三重近隣地域よりA級審判を集めて不足する分についてはB級審判員でお願いできないかと考えている。あとは日本連盟主催の全国大会として50万円の補助を出してもらえるかをご審議願いたい。

仲間専務理事：女子のみに絞って計画をすること、審判員のこと、日連から補助金が出せるかどうかという3点についてお願いします。

坂巻議長：まず、全日本女子を優先することにご意見がある方はお願いします。

中村理事：冬休みだと年末年始になるので、社会人は出場が厳しいと思われる。女子に絞って考えてもよいのではないかと。

豊田事務局長：予算としては、想定をしていない予算ではあるが、先日、スポンサーになってもらった京王観光さんに大会の手配を頼みながら協賛をお願いすれば検討可能かもしれない。

坂巻議長：審判員についてはどうでしょうか。審判部としてはどうですか。

大政理事：特別な事情なのでA級に近いB級審判員であれば良いのではないかと思います。

池端理事：できるだけA級を集めてB級の方に補助で入ってもらうことも可能かと思う。また、引率で参加するA級審判員がいれば審判として協力ができるような体制を考えてもよいと思う。

内田会長：例年社会人は70名程度参加するので、参加費で35万円前後の収入が見込める。社会人を同時に開催しても日数は変わらないのではないかと。

原総務委員：三重県が女子のみであれば受け入れができるかもしれないという所が、この話の始まりです。私自身も社会人の事務作業までを追加するのは難しい。三重県も含めて担当してくれる方がいれば話はできるかと思うが。

- 仲間専務理事：日程の関係から1階級16名以内となる。また試合数が増えると審判員の確保の問題もでてくる。極力規模を小さくすることが必要かと思う。
- 小坂理事：この時期は社会人の参加は難しいと思う。
- 林田理事：A級の審判試験を併せて行うことも審判部では考えている。審判派遣規程では、インターハイ、国体以外の全国大会はNT06名、A級審判員16名ということになっている。そこも含めて考えなければならない。
- 原総務委員：4日間で実施を目指している。事前にZoomで抽選を行い、16名を超えた階級は、会場準備の日の夕方に試合を実施することも考えている。
- 仲間専務理事：社会人の扱いをどうするかという事をきちんと話す必要がある。
- 安川理事：社会人を担当する人がいれば開催が可能なのか。
- 原総務委員：そこはまだ三重県とは話していない。担当者が決まってからの三重県との調整になると思う。
- 中村理事：社会人は時期的に厳しいので、女子ジュニアだけではないか。
- 内田会長：社会人も出場者の調査ができないか。案としては残しておけないか。
- 原総務委員：三重県とも話をする必要がある。責任を持って担当してくれる方がいれば話ができると思うが。
- 内田会長：社会人選手権に対して予算は組んでいないのか。
- 豊田事務局長：今年からプレ大会なので組んではいない。
- 吉沼理事：社会人は仕事をしながら苦労してボクシングを続けている。女子は調査をしたのに、社会人は調査もせずに中止にすることは心苦しい。調査の結果を踏まえて判断すれば平等感があると思う。
- 内田会長：少し手間をかけても調査はした方がよいと思う。
- 池端理事：三重県がこの大会を検討する前提が女子ジュニアだと思うので、社会人が入った時には三重県が受け入れるかわからない。
- 原総務委員：本日の理事会で女子の開催が決定すれば30日に三重県に行って、行政や連盟と話をして開催に向けて進めていきたい。
- 内田会長：ブロック委員に調査を依頼してはどうか。
- 中島理事：1週間もあればできるかと思う。
- 吉沼理事：開催できるかわからないが、という事で調査だけでもしてもらえたらと思う。
- 菊池理事：三重県が女子のために手を挙げてくれてありがたいことだと思う。
責任を三重県に押し付けるべきではないので、社会人が開催できるかどうかは、原先生のように汗を流して動いてくれる方が必要になる。
- 仲間専務理事：原先生が短期間でここまで進めて下さっている。同じことを短いスパンで社会人についても行うことは困難かと思われる。コロナ禍なので、出来ることと出来ないことがあるので優先順位をつけて進めるしかないのではと思う。
- 坂巻議長：女子の大会を進めるという事で反対のかたは挙手をお願いします。
(反対意見なし)
- 安川理事：仮に他の自治体で社会人選手権が可能であるという話があった場合はどうするか決めておいた方がよいのではないか。
- 豊田事務局長：集まったお金と場所があれば可能かと思う。
- 内田会長：一度アンケートをとりませんか。手を挙げてくれる自治体があれば日連としても協力をしたい。三重県の方にも交渉ができればと思います。
- 中村理事：平等に調査をすることは必要かと思う。私がアンケートくらいならとっても良い。
- 仲間専務理事：時間的に三重県での開催は不可能かと思う。開催地も含めて調査が必要だと思う。

坂巻議長：社会人のアンケートは行った上で今後の検討とするということによろしいか。

仲間専務理事：原先生が三重県に行くのはいつでしたか。

原総務委員：明後日の30日です。

仲間専務理事：時間的に厳しいので、三重県は女子のみで進めるしかないと思う。

原総務委員：10月以降は体育館が空いているところにも予約が入ってくるので30日に決めたい。

中村理事：ブロック委員会で開催も含めてアンケートをとってもらえればと思う。

小坂理事：審判の件は特例ということで考えてよいのか。

菊池理事：審判部で判断することかと思う。審判部で特例を検討してもらいたい。

林田理事：権限を審判部にいただければ進めていきたい。

原総務委員：今回の女子ジュニアを公式記録とすることについて確認をお願いします。

後藤理事：全国規模の大会として扱ってもらえれば代表選手の選考の基準にもなる。

坂巻議長：全国規模の公式記録とすることに反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

池端理事：国体の順番が、来年は栃木県、その次は延期となった鹿児島県、その次は佐賀県と続く。全日本社会人と女子ジュニアが国体のプレ大会となったが、鹿児島は2019年に全日本選手権をプレ大会として開催しており、もう一度、プレ大会の予算を計上することはできない。佐賀県はボクシング競技が隔年開催となる最初の年で、プレ大会を行うための予算がない。という状況である。本日の議題にはない事なので、この場で審議を行うことはできないと思うが、今後の課題として問題提起をしておきたいと思う。

・タイザン社グローブ、ヘッドガード及びリングの公認に関して

仲間専務理事：タイザン社製のグローブやヘッドギア、オリンピックで使用したリングを全日本選手権で使用するために公認をする方向で進めていきたい。LINEグループでも審議させてもらったが、書面決議では難しい議案であったので、ここで審議して議決をいただきたい。販売店に関しては審議会を開く必要があるが検定を進めていくということをご審議願いたい。

吉沼理事：販売店については令和元年に規定を作っている。それに準じて進めていけば宜しいかと思えます。上部団体が認定している製品を、改めて下部団体が認め返すには理屈が必要だと思うので、そこは精査して進めてもらいたい。

中島理事：リングは買ったのか。

内田会長：私が個人的に購入した。無償で日本連盟に貸与したい。墨田区長も倉庫に保管してもよいと言ってくれている

坂巻議長：タイザン社のボクシング用品の検定を進めることに反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

2) 審議・報告事項

・マスボクシング参加資格に関して

吉沼理事：マスボクシング競技に参加できる選手は、マスボクシングに登録された選手だけなのか、実戦競技に登録した選手がマスボクシング競技に参加できるのか、実戦競技で登録した選手がマスボクシング競技に参加した後に実戦競技に戻って参加出来るのか、整理して決定されてなく、継続審議となったままである。これらの取り扱いに困っており、迷っている選手がいる。今なら10/8の申込に間に合うので明らかにして欲しい。

菊池理事：吉沼理事から質問が出ていたので、普及員会で検討していただいた。マスボクシング大会は、年度の途中で、実戦からマスボクシングに移行することは良いのではないかとこの意見であった。また、マスボクシングから実戦に移行することは、年度内で一度だけは認めても良いのではないかとこの回答であった。これは、マスボクシングの特性上、実戦で自信がなくなったから競技をやめるのではなく、マスボクシングに留まって頑張りたいとか、ケガをした選手のためにマスボクシングがあった方が良いとのことである。また、マスボクシングをしていたけれど、自信が付いたので実戦をやりたいという可能性もある。これらは、年度内に1度のみなら認めても良いのではないかとこの話しであったので報告する。

吉沼理事：年度内1回限りの変更が可能ということ伝える。

菊池理事：この件は決議事項ではないが、マスボクシング大会は準備を進めているので、皆さんの同意をいただきたいので意見を聞きたい。その結果をSNSで情報共有したい。

池端理事：この意見に賛成であるが、例えば、中学3年生の選手が今まで実戦でやって来たが、本年度は今後出場できる大会がない。最後の思い出にマスボクシングに参加することは可能か。また、新年度からは実戦競技に移行することは可能か教えて欲しい。

菊池理事：実戦をしている自覚を持った選手のマスボクシング出場を認めるべきではない意見であった。年度内に移行したいのであれば、理由書を作成して提出して欲しい旨であった。

井崎理事：今の話しだと、自信がなくなったと言ってしまえば良いことになるのではないか。

菊池理事：グレーな話しが出て来る意見があったが、指導者を信じる形で進めた方が良いのではという意見であった。

吉沼理事：現在、実戦競技で登録している選手が、今回のマスボクシング大会に出場できるが年度内は実戦競技に戻れない。実戦競技に登録している選手が、マスボクシング競技に参加するために特別な書類は必要ないということで良いか。

菊池理事：移行するから理由書は必要である。実戦の選手が、今後も実戦を続けるのであれば、マスボクシングに出ようとする選手を指導者の方で認めずに止めて欲しい。今後、ずっとマスボクシングを続けて行くと言うのであれば、それを信じるしかないので、報告書に記載していただく他ない。とてもグレーである。

吉沼理事：大学4年生で、色々なことで実戦競技が中止になって、登録してから競技が出来ていない。今後も競技の開催がどうなるかもわからないので、何とか試合に出てみたいので、マスボクシングに出たいという選手も理由書が必要か。その理由書を誰が判断するのか。各都道府県連盟が判断するのか。

菊池理事：都道府県連盟で審議していただき、印鑑を押して日本連盟に提出いただいて、普及員会で判断するか、どこが判断するかを、決めて貰っても良い。実戦の選手は実戦の選手としての誇りを持っているので、マスボクシングで腕慣らしをしようとする選手はいないと思う。そこは、良心に誓っていただき、規程に沿っていただくところで判断するしかないと思う。

仲間専務理事：中学3年生がアンダージュニアに出場できないことについては、今後このままで良いのかということはあるが、今年度は王座も終わっており、このまま進めるしかない。御意見があるなら、この場で伺っておきたい

中村理事：今年度は事業も進んでいるので、今後再検討でということでは仕方ないかと思う。

・京王観光との包括協定について

豊田事務局長：10月から1年半の提携で、約300万円の協賛金がいただける。それと、週一回に事務の手伝いで、英語を話せる人が来て通訳や、若しくは世界選手権の帯同で、出来る範囲でやってもらう。社員が大会の補助もしてくれるし、選手の宿泊関係の手配もしてくれる。

中村理事：ブロック大会は関係なく、日本連盟主催の大会のみであるか。

豊田事務局長：基本的に日本連盟の主催大会に対してと、ナショナルチームの遠征の手配である。ブロック大会とかでも手配が必要なら、別途事務御局に相談して欲しい。

・スポーツ仲裁機構に提出された仲裁案件について

仲間専務理事：先日の大学王座の件について、駒澤大学ボクシング部長の深澤様から日本スポーツ仲裁機構宛に申立がされている。山崎先生と相談させていただき9/27(月)に答弁書を提出したので報告する。

豊田事務局長：このことについて、突発的予算として80万円程度の支出があることを理事の皆様にご認識いただきたい。

菊池理事：文書を見せていただいたが、言語道断である。この内容に関しては理事会で何度も話し合いをした。最終的に、小山田理事と中島理事の話しの内容で結論が出たので議決を得なかったにも関わらず、駒澤大学の部長が訴えをしてきたことは、説明をするべき理事として、駒澤大学関係者の二人が説明できていないことはどうなのかと思う。非常に残念である。

・全日本選手権大会の準備状況及び協賛状況について

中村理事：競技役員等は確定した。先週の土曜日に、私、坂巻副会長、曾根崎さん、原先生、体育館の館長と、約二時間現場の確認をして来た。大変な中、何とか踏ん張って進捗している。

豊田事務局長：協賛金は昨日現在で、大体101万円ぐらい集まっている。その中に京王観光の30万円も入っている。東洋大学、岩手県ボクシング連盟、かどた脳神経外科、その他関係者からの協賛が主である。仲間専務が紹介ところも本日電話をして協賛をいただける。先日、井崎理事、原先生、私とでダスキン担当者と会って、年間でいくらかを協賛いただける話であるので、今後詰めて行きたい。

井崎理事：色々な方面に声掛けしているが、芳しくない。スポーツの協賛は、OB、OGがいる企業がスポンサーになりやすい。当初から協賛の獲得は難しいとは思っていた。中継に関しては何社かに当たっている状況である。連盟のYouTubeチャンネルで中継をする方向で進めている。当初から考えていた、映像の権利を持つところは進めて行きたい。今年に関しては入江選手が出るので、各局が映像を欲しがらる。日連が権利を持っていて、日連からメディアに提供することは意味があると思う。

・マチュア資格に関する照会の回答について

及川事務局次長：沖縄県からいくつかの質問が来ている。

Q1 日本ボクシング連盟に登録した選手が、アマチュアアキックボクシング等の他の協議に参加することは可能か。

A1 アマチュアの大会なので、資格上問題ないと事務局は判断している。

Q2 外国籍の人が指導者として、日本ボクシング連盟の役員登録が可能か。また、在留米軍等の外国籍の人が日本ボクシング連盟の選手登録し、大会等に参加することは可能か。

A2 特に外国籍の規程はないので、各県連で判断して欲しい。

ただ、国体などの国籍の問題が発生してくることは、納得をして貰う必要がある。

富岡マネ：全日本選手権大会で、4年に1度のオリンピック選手選考がある際に、優勝した場合の国籍上の問題が生じるかもしれないことが、センシティブな問題になるかと考える。

井崎理事：米軍は、割りとタトゥが入っている人が多いと思うが、タトゥは禁止ではないか。

及川事務局次長：ルール上禁止されているので、出場できない。

仲間専務理事：全日本選手権大会で、オリンピック選手選考を兼ねる場合は、実施要項に日本国籍を有しなければ参加できない旨を記載することで対応可能と考える。

豊田事務局長：若い選手では、二カ国の国籍を持っている人もいる。どちらの国籍で出場するのかを選ぶことが出来るという方法もあるかと思う。

・その他

仲間専務理事：突発的に理事会を開催していることが多いので、二カ月に一度、定期的に理事会開催を行うように出来ればと思う。理事会の最後に次の理事会日程を決めればと思う。

内田会長：皆さん長時間お疲れ様でした。社会人、UJの件も含め、理事会を数多く開かなければならないかと思う。良いボクシング連盟になって行くように、皆で協力し合って行きましょう。